

東北地方 1か月予報

(10月5日から11月4までの天候見通し)

平成14年10月4日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

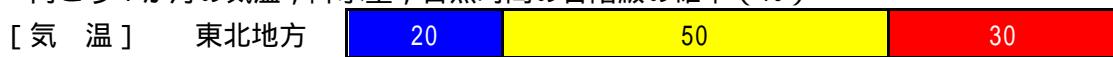
向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとあります。

天気はおおむね周期的に変化するでしょう。

向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は平年並か高い、3~4週目は平年並の見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 10月 5日(土) ~ 11月 4日(月)

1週目 : 10月 5日(土) ~ 10月 11日(金)

2週目 : 10月 12日(土) ~ 10月 18日(金)

3~4週目 : 10月 19日(土) ~ 11月 1日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報 : 毎週金曜日 14時30分 次回は10月11日

3か月予報 : 10月21日(月) 14時00分

寒候期予報 : 10月10日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温(℃)		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	13.0	137.5	148.0	15.2	13.9	11.9
新庄	11.5	159.8	100.7	14.0	12.5	10.3
若松	12.3	74.7	118.4	15.0	13.4	11.0
深浦	12.6	161.3	129.0	14.8	13.5	11.5
青森	11.7	111.1	147.2	14.1	12.7	10.6
むつ	11.4	113.0	156.8	13.7	12.4	10.4
八戸	11.9	77.7	163.4	14.2	12.9	10.8
秋田	12.8	161.0	141.6	15.1	13.7	11.7
盛岡	10.9	98.8	147.3	13.4	11.9	9.7
宮古	12.4	104.2	157.3	14.5	13.3	11.3
酒田	13.9	177.7	137.0	16.1	14.8	12.8
山形	12.3	76.4	130.2	14.8	13.4	11.2
仙台	14.0	95.6	153.7	16.3	15.0	13.0
石巻	13.4	100.2	160.8	15.7	14.4	12.3
福島	13.9	91.3	142.1	16.3	15.0	12.8
白河	12.4	102.5	147.4	14.7	13.4	11.3
小名浜	15.4	143.9	158.9	17.4	16.3	14.4

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.6~+0.3	81~110	96~104
東北日本海側	-0.6~+0.4	88~108	96~104
東北太平洋側	-0.5~+0.4	67~118	97~105

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+0.6	-0.8~+0.5	-0.6~+0.5
東北日本海側	-0.6~+0.6	-0.8~+0.6	-0.6~+0.4
東北太平洋側	-0.6~+0.6	-0.7~+0.5	-0.5~+0.5

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成14年10月4日 仙台管区気象台

1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(10月5日～11月4日)：

天気はおおむね周期的に変化するでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(10月5日～10月11日)：

7日頃気圧の谷の影響で、天気がくずれる見込みです。その他の日は、東北太平洋側はおおむね晴ますが、東北日本海側は気圧の谷や寒気の影響で曇りの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(10月12日～10月18日)：

天気は周期的に変化するでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

3～4週目(10月19日～11月1日)：

天気はおおむね周期的に変化するでしょう。低気圧の通過後は寒気の影響で、東北日本海側ではしぐれる所がある見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

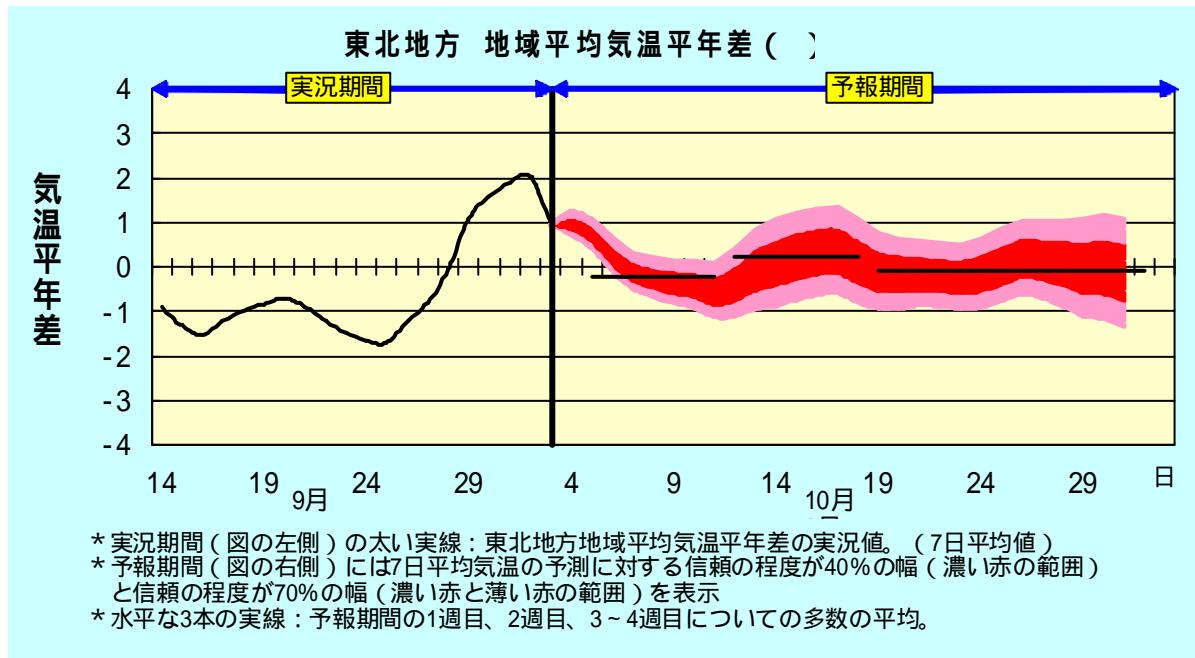
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	12.9日	3.5日	3.2日	6.2日
東北太平洋側	16.0日	3.7日	4.0日	8.3日

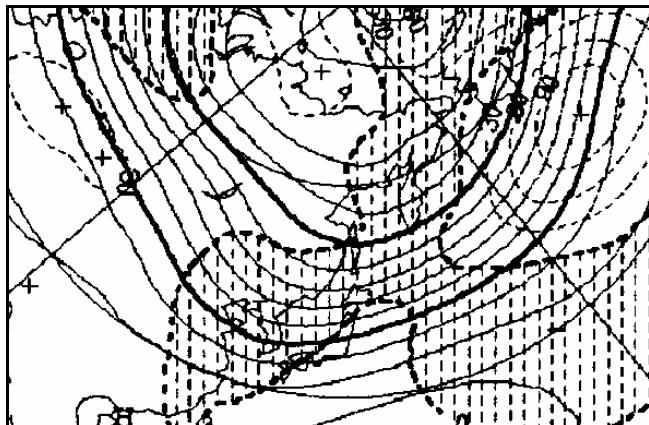
2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目、3～4週目ともに「平年並」を予測している。

予報は、その他の資料から2週目を「平年並か高い」に変更する他は、数値予報どおりとする。なお、数値予報の信頼度は小さい。



3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

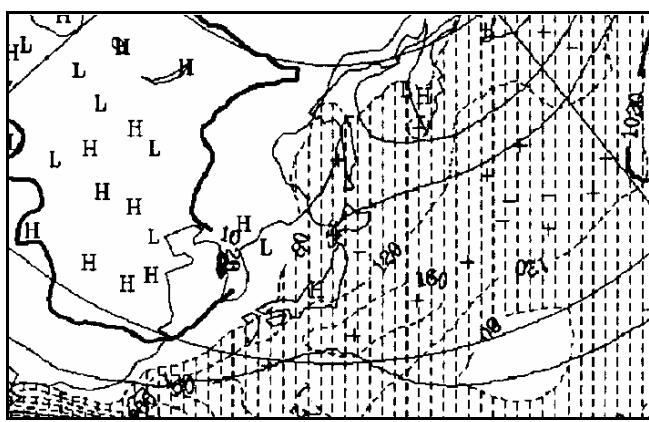


月平均の 500hPa 高度・偏差
等高度線 : 60m 每、偏差 : 30m 每、陰影部 : 負偏差

500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、東シナ海から日本海、オホーツク海にかけて負偏差となり、朝鮮半島付近が気圧の谷となる。偏西風の流れは順調で、天気はおおむね周期変化する見込み。

週別（図略）では、1週目は朝鮮半島の気圧の谷が明瞭となり、東日本や北日本は正偏差に覆われる。2週目は華中から東シナ海、本州にかけて正偏差となる。3~4週目は中国東北区から日本付近は負偏差となる。



月平均の地上気圧と降水量
等圧線 : 4hPa 每、降水量 : 40mm 每、陰影部 : 80mm 以上

地上気圧と降水量

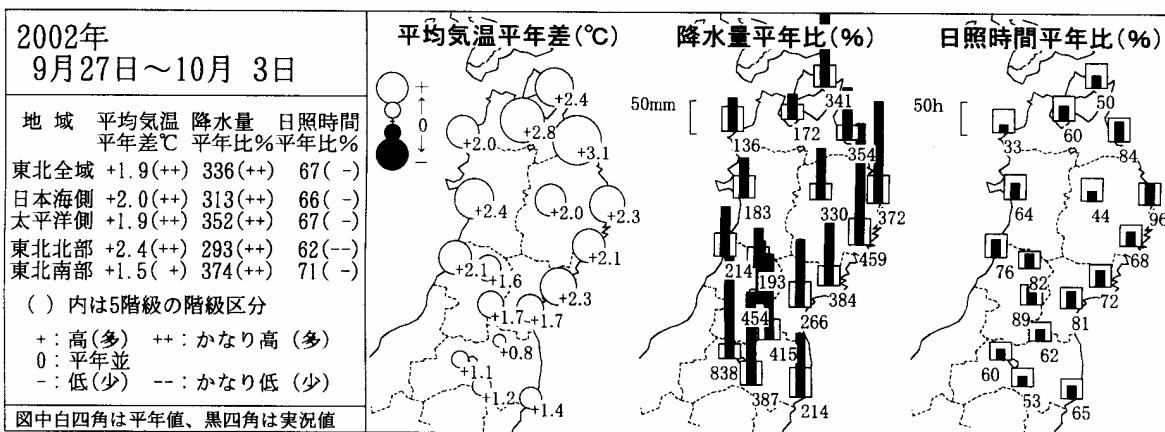
月平均で見ると、日本付近は東西に広がる高圧帯となっており、日本の南海上に降水の中心がある。

週別（図略）では、1週目は日本付近は高圧帯となり、弱い降水域が東北地方にかかる。2週目は日本付近が低圧部となるが、東北地方にかかる降水域は弱い。3~4週目は、大陸の高気圧が東シナ海まで張り出してくる。北日本の日本海側には寒気を伴った低気圧によると見られる、まとまった降水域が予想される。

4. 最近1週間（9月27日～10月3日）の天候の経過

この期間、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くた。1日から2日にかけては東北地方を北上した台風第21号の影響により各地で10月として記録的な暴風となり、また、1日の日降水量が若松で155.0mmと10月として第1位、山形で77.0mmと第3位となるなど大荒れとなって、各地で大きな被害が発生した。台風の通過後は晴れて、各地で気温が高くなった。

平均気温は、東北北部で平年差+2.4℃とかなり高く、東北南部で平年差+1.5度と高かった。降水量は、東北地方で平年比336%とかなり多かった。日照時間は、東北北部で平年比62%とかなり少なく、東北南部で平年比71%と少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）